



支出負担行為決議書

(一般)

単件

伝票番号

0009940-000

年度	25	会計	01	一般会計	所属	60100000 消防課			
市長	副市長	主務部長	主務部次長	主務課長	課長補佐	主務係長	担当者		
						合 議 欄			
						経営課長	課長補佐	財務係長	財務係

予算区分	繰越明許予算	
款項目	09	消防費
	01	消防費
	03	消防施設費
部課事業	60	消防本部
	10	消防課
	0105	通信指令業務共同運用
節細節細々節	15	工事請負費
	01	工事請負費

起票日	25年 5月 14日
決裁日	25年 5月 14日
決裁区分	市長
工事財源	単・国・県・地
予算現額	273,083,600円
負担行為額	262,551,700円
予算残額	10,531,900円

金額	億	万	円
¥	2	6	2551700

事由等 由 消防救急デジタル無線整備事業

履行期間 平成25年 5月20日 から 平成26年 2月28日 まで または 日間

履行場所 瀬戸市苗場町101番地ほか地内

備考 契約 平成25年5月14日

支払先 債権者コード 0000570564

住所 名古屋市名東区猪高台一丁目1315番地

氏名 株式会社富士通ゼネラル 中部情報通信ネットワーク営業部

代表者肩書

代表者名 部長 今村 和浩

連番	品名コード	項目・品名	履行場所	数量	単価/金額

履行保証保険証券

証券番号 M022542105

発行日 平成25年5月14日
 発行所 東京都港区猪高台一丁目1315番地
 発行元 株式会社富士通ゼネラル
 発行先 中部情報通信和浩
 発行先住所 愛知県瀬戸市追分町64番地の1

履行保証	建設工事の請負契約	発注者	国内官庁	受注形態	単体
履行保証期間	平成25年5月20日から平成26年2月28日まで	285日間			
履行保証特約期間	*****				

発行者 株式会社富士通ゼネラル
 発行者住所 東京都港区猪高台一丁目1315番地
 発行者代表者 今村 和浩
 発行者代表者住所 愛知県瀬戸市追分町64番地の1
 発行者代表者氏名 今村 和浩
 発行者代表者住所 愛知県瀬戸市追分町64番地の1
 発行者代表者氏名 今村 和浩

受取人 株式会社富士通ゼネラル
 受取人住所 愛知県瀬戸市追分町64番地の1
 受取人代表者 今村 和浩
 受取人代表者住所 愛知県瀬戸市追分町64番地の1
 受取人代表者氏名 今村 和浩

契約内容	消防救急デジタル無線整備事業
履行場所	瀬戸市苗場町101番地ほか地内
契約締結日	平成25年5月20日
履行期間	平成25年5月20日から平成26年2月28日まで
納入期間	
契約期間	
契約金額	262,551,700円
契約番号	

履行保証保険定額てん補特約条項	備考欄
-----------------	-----

種類	てん補条件	保険金額	適用料率	適用料率	保険料
履行保証	定額てん補	26,255,170	10	4,2200	110,800
*****	***	***	***	***	***
合計保険料 (一時払)					110,800

当社は、この保険証券に添付した補記保険の普通保険約款および特約条項その他この保険証券に記載したとごらに、上記のとおり保険契約を締結し、その証として保険証券を発行します。
 ご注意 この証券記載事項が事実と相違した場合は、この保険契約の効力を失うことがありますので、もし相違がございましたら、ただちに当社営業店へその旨をお申し出ください。

(領収日) 平成25年5月14日
 (証券作成日) 平成25年5月14日
 (証券作成地) 東京都

印紙税申告納付につき新宿税務署承認済



25年市長提出第29号議案

消防救急デジタル無線整備請負契約の締結について

本市が、消防救急デジタル無線整備を施工するに当たり、次の内容により請負契約を締結するものとする。

平成25年5月14日提出

瀬戸市長 増岡 錦也

- 1 契約金額 262,551,700円
- 2 工事場所 瀬戸市苗場町101番地外地内
- 3 契約方法 指名競争入札
- 4 工事内容 瀬戸・尾張旭消防指令センターの通信基盤の高機能化とともに、緊急消防援助隊の応援と受援を効果的かつ一元的に行うため、消防救急デジタル無線の整備を図るもの
- 5 工期 平成25年5月20日から平成26年2月28日まで
- 6 契約の相手方 名古屋市名東区猪高台一丁目1315番地
株式会社富士通ゼネラル中部情報通信ネットワーク営業部
部長 今村和浩

(理由)

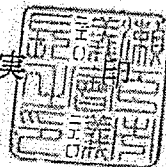
この案を提出するのは、消防救急デジタル無線整備の請負契約を締結するに当たり、議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例（昭和52年瀬戸市条例第1号）第2条の規定に基づき、議会の議決を求めるため必要があるからである。

上記 平成25年5月14日 議決

上記のとおり議決したことを証明する。

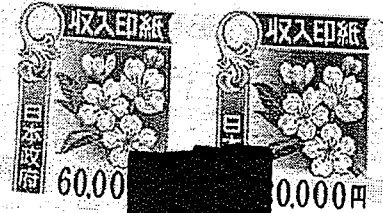
平成25年5月14日

瀬戸市議会議長 三木 雪 実





新 工事請負仮契約書



- 1 工事名 消防救急デジタル無線整備事業
- 2 工事場所 瀬戸市苗場町101番地ほか地内
- 3 工期 着工 平成25年5月20日
完了 平成26年2月28日
- 4 請負金額 金262,551,700円

うち取引に係る消費税及び地方消費税の額 金12,463,400円

(注)「取引に係る消費税及び地方消費税の額」は、請負金額のうち課税対象分の金額に5/105を乗じて得た額とする。

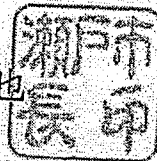
- 5 契約保証金 瀬戸市契約規則第30条第1項あるいは第2項第1号又は第2号の規定による。
上記の工事について、





発注者 瀬戸市を甲とし、請負者 株式会社富士通ゼネラル 中部
情報通信ネットワーク営業部

を乙として、別添の条項により公正な請負仮契約を締結する。
なお、この契約について、議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例(昭和52年瀬戸市条例第1号)第2条の規定による議会の議決を経たときに限り、これを本契約とみなす。

平成25年5月2日

発注者 愛知県瀬戸市追分町64番地の1
瀬戸市
代表者 瀬戸市長 増岡 錦也



請負者 名古屋市  目1315番地
株式会社 
中部情報 
部 

瀬戸

(総則)

第1条 発注者（以下「甲」という。）及び請負者（以下「乙」という。）は、この約款（契約書を含む。以下同じ。）に基づき、設計図書（別冊の設計書、図面、仕様書、現場説明書及び現場説明に対する質問回答書をいう。以下同じ。）に従い、日本国の法令を遵守し、この契約（この約款及び設計図書を内容とする工事の請負契約をいう。以下同じ。）を履行しなければならない。

2 乙は、契約書記載の工事を契約書記載の工期内に完成し、工事目的物を甲に引き渡すものとし、甲は、その請負代金を支払うものとする。

3 仮設、施工方法その他工事目的物を完成するために必要な一切の手段（「施工方法等」という。以下同じ。）については、この約款及び設計図書に特別の定めがある場合を除き、乙がその責任において定める。

4 乙は、この契約の履行に関して知り得た秘密を漏らしてはならない。

5 この約款に定める請求、通知、報告、届出、申出、承諾及び解除は、書面により行われなければならない。

6 この契約の履行に関して甲乙間で用いる言語は、日本語とする。

7 この約款に定める金銭の支払に用いる通貨は、日本円とする。

8 この契約の履行に関して甲乙間で用いる計量単位は、設計図書に特別の定めがある場合を除き、計量法（平成4年法律第51号）に定めるものとする。

9 この約款及び設計図書における期間の定めについては、民法（明治29年法律第89号）及び商法（明治32年法律第48号）の定めるところによるものとする。

10 この契約は、日本国の法令に準拠するものとする。

11 この契約に係る訴訟については、日本国の裁判所をもって合意による専属的管轄裁判所とする。

12 乙が共同企業体を結成している場合においては、甲は、この契約に基づくすべての行為を共同企業体の代表者に対して行うものとし、甲が当該代表者に対して行ったこの契約に基づくすべての行為は、当該企業体のすべての構成員に対して行ったものとみなし、また、乙は、甲に対して行うこの契約に基づくすべての行為について当該代表者を通じて行われなければならない。

(関連工事の調整)

第2条 甲は、乙の施工する工事及び甲の発注に係る第三者の施工する他の工事が施工上密接に関連する場合において、必要があるときは、その施工につき、調整を行うものとする。この場合乙は、甲の調整に従い、第三者の行う工事の円滑な施工に協力しなければならない。

(工程表)

第3条 乙は、この契約締結後5日以内に設計図書に基づき、工程表を作成し、甲に提出しなければならない。

(契約の保証)

第4条 乙は、この契約の締結と同時に、次の各号の一に掲げる保証を付さなければならない。ただし、第五号の場合においては、履行保証保険契約の締結後、直ちにその保険証券を甲に寄託しなければならない。なお、契約保証金を免除とした契約については、本条は適用しない。

一 契約保証金の納付

二 契約保証金に代わる担保となる有価証券等の提供

三 この契約による債務の不履行により生じる損害金の支払を保証する銀行、甲が確実に認める金融機関又は保証事業会社（公共工事の前払金保証事業に関する法律（昭和27年法律第184号）第2条第4項に規定する保証事業会社をいう。以下同じ。）の保証

四 この契約による債務の履行を保証する公共工事履行保証証券による保証

五 この契約による債務の不履行により生じる損害をてん補する履行保証保険契約の締結

2 前項の保証に係る契約保証金の額、保証金額又は保険金額（第4項において「保証の額」という。）は、請負代金額の10分の1以上としなければならない。

3 第1項の規定により、乙が同項第二号又は第三号に掲げる保証を付したときは、当該保証は契約保証金に代わる担保の提供として行われたものとし、同項第四号又は第五号

に掲げる保証を付したときは、契約保証金の納付を免除する。

4 請負代金額の変更があった場合には、保証の額が変更後の請負代金額の10分の1に達するまで、甲は、保証の額の増額を請求することができ、乙は、保証の額の減額を請求することができる。

(権利義務の譲渡等)

第5条 乙は、この契約により生じる権利又は義務を第三者に譲渡し、又は承継させてはならない。ただし、あらかじめ、甲の承諾を得た場合は、この限りでない。

2 乙は、工事目的物、工事材料(工場製品を含む。以下同じ。)のうち第14条第2項の規定による検査に合格したもの及び設計図書に定める工事仮設物を第三者に譲渡し、貸与し、又は抵当権その他の担保の目的に供してはならない。

(下請負の制限等)

第6条 乙は、工事の全部若しくはその主たる部分又は他の部分から独立してその機能を発揮する工作物の工事を一括して第三者に委任し又は請け負わせてはならない。

2 乙は、工事を第三者に委任し又は請け負わせた場合において、当該第三者(当該工事が数次の契約によって行われるときは、後次のすべての契約に係る受任者又は請負人を含む。以下「下請負人」という。)が工事の全部又はその主たる部分を一括して他の第三者に委任し又は請け負わせることのないようにしなければならない。

3 乙又は下請負人が工事を第三者に委任し又は請け負わせようとするときは、乙は建設工事標準下請負契約約款その他これに準ずる書面により契約を締結し、又は締結させるように努めなければならない。

(下請負の届出)

第7条 乙は、工事を第三者に委任し又は請け負わせようとするときは、あらかじめ甲に届け出なければならない。

(下請負人の育成、指導)

第8条 乙は、下請負人が受任又は請け負いに係る工事の施工に際し、建設業法その他関係法令を遵守するよう指導するとともに、下請負人の育成に努めなければならない。

(特許権等の使用)

第9条 乙は、特許権、実用新案権、意匠権、商標権その他日本国の法令に基づき保護される第三者の権利(以下「特許権等」という。)の対象となっている工事材料、施工方法等を使用するときは、その使用に関する一切の責任を負わなければならない。ただし、甲がその工事材料、施工方法を指定した場合において、設計図書に特許権等の対象である旨の明示がなく、かつ、乙がその存在を知らなかったときは、甲は、乙がその使用に関して要した費用を負担しなければならない。

(監督員)

第10条 甲は、監督員を定めたときは、その氏名を乙に通知しなければならない。監督員を変更したときも同様とする。

2 監督員は、この約款の他の条項に定めるもの及びこの約款に基づく甲の権限とされる事項のうち、甲が必要と認めて監督員に委任したもののほか、設計図書に定めるところにより、次に掲げる権限を有する。

- 一 契約の履行についての乙又は乙の現場代理人に対する指示、承諾又は協議
- 二 設計図書に基づく工事の施工のための詳細図等の作成及び交付又は乙が作成した詳細図等の承諾
- 三 設計図書に基づく工程の管理、立会、工事の施工状況の検査又は工事材料の試験若しくは検査(確認を含む。)

3 甲は、2名以上の監督員を置き、前項の権限を分担させたときにあってはそれぞれの監督員の有する権限の内容を、監督員にこの約款に基づく甲の権限の一部を委任したときにあっては当該委任した権限の内容を、乙に通知しなければならない。

4 第2項の規定に基づく監督員の指示又は承諾は、原則として、書面により行わなければならない。

(現場代理人及び主任技術者)

第11条 乙は、建設業法の定めるところにより、現場代理人、主任技術者(監理技術者)専任の主任技術者(専任の監理技術者)又は専門技術者(建設業法第26条の2に規定する技術者をいう。以下同じ。)を定め、この契約締結後5日以内に、甲の定めるとこ

ろによりその氏名、その他必要な事項を甲に通知しなければならない。これらの者を変更したときも同様とする。

2 現場代理人は、この契約の履行に関し、工事現場に常駐し、その運営、取締りを行うほか、請負代金額の変更、工期の変更、請負代金の請求及び受領、第13条第1項の請求の受理、同条第3項の決定及び通知並びにこの契約の解除に係る権限を除き、この契約に基づく乙の一切の権限を行使することができる。

3 乙は、前項の規定にかかわらず、自己の有する権限のうち現場代理人に委任せず自ら行使しようとするものがあるときは、あらかじめ、当該権限の内容を甲に通知しなければならない。

4 現場代理人、主任技術者（監理技術者）及び専門技術者は、これを兼ねることができる。

（履行報告）

第12条 乙は、設計図書に定めるところにより、契約の履行について甲に報告しなければならない。

（工事関係者に対する措置請求）

第13条 甲は、現場代理人がその職務（主任技術者（監理技術者）又は専門技術者と兼任する現場代理人にあってはそれらの者の職務を含む。）の執行につき著しく不相当と認められるときには、乙に対して、その理由を明示した書面により、必要な措置をとるべきことを請求することができる。

2 甲又は監督員は、主任技術者（監理技術者）、専門技術者（これらの者と現場代理人を兼任するものを除く。）その他乙が工事を施工するために使用している下請負人、労働者等で工事の施工又は管理につき著しく不相当と認められるものがあるときは、乙に対して、その理由を明示した書面により、必要な措置をとるべきことを請求することができる。

3 乙は、前2項の規定による請求があったときは、当該請求に係る事項について決定し、その結果を請求を受けた日から10日以内に甲に通知しなければならない。

（工事材料の品質及び検査等）

第14条 工事材料の品質については、設計図書に定めるところによる。設計図書にその品質が明示されていない場合にあつては、中等の品質を有するものとする。

2 乙は、設計図書において監督員の検査（確認を含む。以下本条において同じ。）を受けて使用すべきものと指定された工事材料については、当該検査に合格したものを使用しなければならない。この場合において、検査に直接要する費用は、乙の負担とする。

3 監督員は、乙から前項の検査を請求されたときは、請求を受けた日から7日以内に応じなければならない。

4 乙は、工事現場内に搬入した工事材料を監督員の承諾を受けずに工事現場外に搬出してはならない。

5 乙は、前項の規定にかかわらず、検査の結果不合格と決定された工事材料については、当該決定を受けた日から7日以内に工事現場外に搬出しなければならない。

（監督員の立会い及び工事記録の整備等）

第15条 乙は、設計図書において監督員の立会いの上調査し、又は調査について見本検査を受けるものと指定された工事材料については、当該立会いを受けて調査し、又は当該見本検査に合格したものを使用しなければならない。

2 乙は、設計図書において監督員の立会いの上施工するものと指定された工事については、当該立会いを受けて施工しなければならない。

3 乙は、前2項に規定するほか、甲が特に必要があると認めて設計図書において見本又は工事写真等の記録を整備すべきものと指定した工事材料の調査又は工事の施工をするときは、設計図書に定めるところにより、当該記録を整備し、監督員の請求があったときは、当該請求を受けた日から7日以内に提出しなければならない。

4 監督員は、乙から第1項又は第2項の立会い又は見本検査を請求されたときは、当該請求を受けた日から7日以内に応じなければならない。

5 前項の場合において、監督員が正当な理由なく乙の請求に7日以内に応じないため、その後の工程に支障をきたすときは、乙は、監督員に通知した上、当該立会い又は見本検査を受けることなく、工事材料を調査して使用し、又は工事を施工することができる。

この場合において、乙は、当該工事材料の調合又は当該工事の施工を適切に行ったことを証する見本又は工事写真等の記録を整備し、監督員の請求があったときは、当該請求を受けた日から7日以内に提出しなければならない。

6 第1項、第3項又は前項の場合において、見本検査又は見本若しくは工事写真等の記録の整備に直接要する費用は、乙の負担とする。

(支給材料)

第16条 甲が乙に支給する工事材料（以下「支給材料」という。）の品名、数量、品質又は規格、引渡場所及び引渡時期は、設計図書に定めるところによる。

2 監督員は、支給材料の引渡しに当たっては、乙の立会いの上、甲の負担において、当該支給材料を検査しなければならない。この場合において、当該検査の結果、その品名、数量、品質又は規格が設計図書の定めと異なり、又は使用に適当でないと認めるときは、乙は、その旨を直ちに甲に通知しなければならない。

3 乙は、支給材料の引渡しを受けたときは、引渡しの日から7日以内に、甲に受領書を提出しなければならない。

4 乙は、支給材料の引渡しを受けた後、当該支給材料に第2項の検査により発見することが困難であった隠れたかしがあり使用に適当でないと認めるときは、その旨を直ちに甲に通知しなければならない。

5 甲は、乙から第2項後段又は前項の規定による通知を受けた場合において、必要があると認められるときは、当該支給材料に代えて他の支給材料を引渡し、支給材料の品名、数量、品質若しくは規格を変更し、又は理由を明示した書面により、当該支給材料の使用を乙に請求しなければならない。

6 甲は、前項に規定するほか、必要があると認めるときは、支給材料の品名、数量、品質若しくは規格、引渡場所又は引渡時期を変更することができる。

7 甲は、前2項の場合において、必要があると認められるときは、工期若しくは請負代金額を変更し、又は乙に損害を及ぼしたときは必要な費用を負担しなければならない。

8 乙は、支給材料を善良な管理者の注意をもって管理しなければならない。

9 乙は、設計図書の定めるところにより、工事の完成、設計図書の変更等によって不用となった支給材料を甲に返還しなければならない。

10 乙は、故意又は過失により支給材料が滅失若しくはき損し、又はその返還が不可能となったときは、甲の指定した期間内に代品を納め、若しくは原状に復して返還し、又は返還に代えて損害を賠償しなければならない。

11 乙は、支給材料の使用方法が設計図書に明示されていないときは、監督員の指示に従わなければならない。

(工事用地の確保等)

第17条 甲は工事用地その他設計図書において、甲が提供すべきことを明示した工事の施工上必要な用地（以下「工事用地等」という。）を乙が工事の施工上必要とする日（設計図書に特別の定めがあるときは、その定められた日）までに確保しなければならない。

2 乙は、確保された工事用地等を善良な管理者の注意をもって管理しなければならない。

3 工事の完成、設計図書の変更等によって工事用地等が不用となった場合において、当該工事用地等に乙が所有又は管理する工事材料、建設機械器具、仮設物その他の物件（下請負人の所有又は管理するこれらの物件を含む。以下本条において同じ。）があるときは、乙は、当該物件を撤去するとともに、当該工事用地等を修復し、取片付けて甲に明け渡さなければならない。

4 前項の場合において、乙が正当な理由なく、相当の期間内に当該物件を撤去せず、又は工事用地等の修復若しくは取片付けを行わないときは、甲は、乙に代わって当該物件を処分し、工事用地等の修復若しくは取片付けを行うことができる。この場合において、乙は、甲の処分又は修復若しくは取片付けについて異議を申し出ることができず、また、甲の処分又は修復若しくは取片付けに要した費用を負担しなければならない。

5 第3項に規定する乙のとるべき措置の期限、方法等については、甲が乙の意見を聴いて定める。

(設計図書不適合の場合の改造義務及び破壊検査等)

第18条 乙は、工事の施工部分が設計図書に適合しない場合において、甲がその改造を請求したときは、当該請求に従わなければならない。この場合において、当該不適合が

第1章 2
第2章 3
第3章 4
第4章 5
第5章 2
第6章 3
第7章 4
第8章 5
第9章 2
第10章 3
第11章 4
第12章 5
第13章 2
第14章 3
第15章 4
第16章 5
第17章 2
第18章 3
第19章 4
第20章 5
第21章 2
第22章 3
第23章 4
第24章 5
第25章 2
第26章 3
第27章 4
第28章 5
第29章 2
第30章 3

監督員の指示によるときその他甲の責に帰すべき事由によるときは、甲は、必要があると認められるときは工期若しくは請負代金額を変更し、又は乙に損害を及ぼしたときは必要な費用を負担しなければならない。

- 2 甲は、乙が第14条第2項又は第15条第1項から第3項までの規定に違反した場合において、必要があると認められるときは、工事の施工部分を破壊して検査することができる。
- 3 前項に規定するほか、甲は、工事の施工部分が設計図書に適合しないと認められる相当の理由がある場合において、必要があると認められるときは、当該相当の理由を乙に通知して、工事の施工部分を最小限度破壊して検査することができる。
- 4 前2項の場合において、検査及び復旧に直接要する費用は乙の負担とする。
(条件変更等)

第19条 乙は工事の施工に当たり、次の各号の一に該当する事実を発見したときは、その旨を直ちに甲に通知し、その確認を請求しなければならない。

- 一 設計書、図面、仕様書、現場説明書及び現場説明に対する質問回答書が一致しないこと（これらの優先順位が定められている場合を除く。）。
- 二 設計図書に誤謬又は脱漏があること。
- 三 設計図書の表示が明確でないこと。
- 四 工事現場の形状、地質、湧水等の状態、施工上の制約等設計図書に示された自然的又は人為的な施工条件と実際の工事現場が一致しないこと。
- 五 設計図書に明示されていない施工条件について予期することができない特別な状態が生じたこと。

2 甲は、前項の規定による確認を請求されたとき、又は自ら前項各号に掲げる事実を発見したときは、乙の立会いの上、直ちに調査を行わなければならない。ただし、乙が立会いに応じない場合には、乙の立会いを得ずに行うことができる。

3 甲は、乙の意見を聴いて、調査の結果（これに対してとるべき措置を指示する必要があるときは、当該指示を含む。）をとりまとめ、調査の終了後14日以内に、その結果を乙に通知しなければならない。ただし、その期間内に通知できないやむを得ない理由があるときは、あらかじめ乙の意見を聴いた上、当該期間を延長することができる。

4 前項の調査の結果において第1項の事実が確認された場合において、必要があると認められるときは、次の各号に掲げるところにより、設計図書の訂正又は変更を行わなければならない。

- 一 第1項第1号から第3号までのいずれかに該当し
設計図書を訂正する必要があるもの 甲が行う。
- 二 第1項第4号又は第5号に該当し設計図書を変更
する場合で工事目的物の変更を伴うもの 甲が行う。
- 三 第1項第4号又は第5号に該当し設計図書を変更
する場合で工事目的物の変更を伴わないもの 甲乙協議して
甲が行う。

5 前項の規定により設計図書の訂正又は変更が行われた場合において、甲は、必要があると認められるときは工期若しくは請負代金額を変更し、又は乙に損害を及ぼしたときは必要な費用を負担しなければならない。
(設計図書の変更)

第20条 甲は、前条第4項の規定によるほか、必要があると認められるときは、設計図書の変更内容を乙に通知して、設計図書を変更することができる。この場合において、甲は、必要があると認められるときは工期若しくは請負代金額を変更し、又は乙に損害を及ぼしたときは必要な費用を負担しなければならない。
(工事の中止)

第21条 工事用地等の確保ができない等のため又は暴風、豪雨、洪水、高潮、地震、地すべり、落盤、火災、騒乱、暴動その他の自然的又は人為的な事象（以下「天災等」という。）であつて乙の責に帰することができないものにより工事目的物等に損害を生じ若しくは工事現場の状態が変動したため、乙が工事を施工できないと認められるときは、甲は、工事の中止内容を直ちに乙に通知して、工事の全部又は一部の施工を一時中止させなければならない。

2 甲は、前項の規定によるほか、必要があると認めるときは、工事の中止内容を乙に通

知して、工事の全部又は一部の施工を一時中止させることができる。

- 3 甲は、前2項の規定により工事の施工を一時中止させた場合において、必要があると認められるときは工期若しくは請負代金額を変更し、又は乙が工事の続行に備え工事現場を維持し若しくは労働者、建設機械器具等を保持するための費用その他の工事の施工の一時中止に伴う増加費用を必要とし若しくは乙に損害を及ぼしたときは必要な費用を負担しなければならない。

(乙の請求による工期の延長)

第22条 乙は、天災等又は第2条の規定に基づく関連工事の調整への協力その他乙の責に帰することができない事由により工期内に工事を完成することができないときは、その理由を明示した書面により、甲に工期の延長変更を請求することができる。

(甲の請求による工期の短縮等)

第23条 甲は、特別の理由により工期を短縮する必要があるときは、工期の短縮変更を乙に請求することができる。

- 2 甲は、この約款の他の条項の規定により工期を延長すべき場合において、特別の理由があるときは、通常必要とされる工期に満たない工期への変更を請求することができる。
- 3 甲は前2項の場合において、必要があると認められるときは請負代金額を変更し、又は乙に損害を及ぼしたときは必要な費用を負担しなければならない。

(工期の変更方法)

第24条 工期の変更については、甲乙協議して定める。ただし、協議開始の日から14日以内に協議が整わない場合には、甲が定め乙に通知する。

- 2 前項の協議開始の日については、甲が乙の意見を聴いて定め、乙に通知するものとする。ただし、甲が工期の変更事由が生じた日(第22条の場合にあっては、甲が工期変更の請求を受けた日、前条の場合にあっては、乙が工期変更の請求を受けた日)から7日以内に協議開始の日を通知しない場合には、乙は、協議開始の日を定め、甲に通知することができる。

(請負代金額の変更方法等)

第25条 請負代金額の変更については、甲乙協議して定める。ただし、協議開始の日から14日以内に協議が整わない場合には、甲が定め、乙に通知する。

- 2 前項の協議開始の日については、甲が乙の意見を聴いて定め、乙に通知するものとする。ただし、請負代金額の変更事由が生じた日から7日以内に協議開始の日を通知しない場合には、乙は、協議開始の日を定め、甲に通知することができる。
- 3 この約款の規定により、乙が増加費用を必要とした場合又は損害を受けた場合に甲が負担する必要な費用の額については、甲乙協議して定める。

(賃金又は物価の変動に基づく請負代金額の変更)

第26条 甲又は乙は、工期内で請負契約締結の日から12か月を経過した後に日本国内における賃金水準又は物価水準の変動により請負代金額が不相当となったと認めるときは、相手方に対して請負代金額の変更を請求することができる。

- 2 甲又は乙は、前項の規定による請求があったときは、変動前残工事代金額(請負代金額から当該請求時の出来形部分に相応する請負代金額を控除した額をいう。以下同じ。)と変動後残工事代金額(変動後の賃金又は物価を基礎として算出した変動前残工事代金額に相応する額をいう。以下同じ。)との差額のうち変動前残工事代金額の1000分の15を超える額につき、請負代金額の変更に応じなければならない。
- 3 変動前残工事代金額及び変動後残工事代金額は、請求のあった日を基準とし、物価指数等に基づき甲乙協議して定める。ただし、協議開始の日から14日以内に協議が整わない場合にあつては、甲が定め、乙に通知する。
- 4 第1項の規定による請求は、本条の規定により請負代金額の変更を行った後再度行うことができる。この場合においては、第1項中「請負契約締結の日」とあるのは「直前本条に基づく請負代金額の変更の基準とした日」とするものとする。
- 5 特別な要因により工期内に主要な工事材料の日本国内における価格に著しい変動を生じ、請負代金額が不相当となったときは、甲又は乙は、前各項の規定によるほか、請負代金額の変更を請求することができる。
- 6 予期することができない特別の事情により、工期内に日本国内において急激なインフレーション又はデフレーションを生じ、請負代金額が著しく不相当となったときは、甲

又は乙は、前各項の規定にかかわらず、請負代金額の変更を請求することができる。

7 第5項及び前項の場合において、請負代金額の変更額については、甲乙協議して定める。ただし、協議開始の日から14日以内に協議が整わない場合にあつては、甲が定め、乙に通知する。

8 第3項及び前項の協議開始の日については、甲が乙の意見を聴いて定め、乙に通知するものとする。ただし、甲が第1項、第5項又は第6項の請求を行った日又は受けた日から7日以内に協議開始の日を通知しない場合には、乙は、協議開始の日を定め、甲に通知することができる。

(臨機の措置)

第27条 乙は、災害防止等のため必要があると認めるときは、臨機の措置をとらなければならない。この場合において、必要があると認めるときは、乙は、あらかじめ甲の意見を聴かなければならない。ただし、緊急やむを得ない事情があるときは、この限りではない。

2 前項の場合においては、乙は、そのとつた措置の内容を甲に直ちに通知しなければならない。

3 甲は、災害防止その他工事の施工上特に必要があると認めるときは、乙に対して臨機の措置をとることを請求することができる。

4 乙が第1項又は前項の規定により臨機の措置をとつた場合において、当該措置に要した費用のうち、乙が請負代金額の範囲において負担することが適当でない認められる部分については、甲が負担する。

(一般的損害)

第28条 工事目的物の引渡し前に、工事目的物又は工事材料について生じた損害その他工事の施工に関して生じた損害(次条第1項若しくは第2項又は第30条第1項に規定する損害を除く。)については、乙がその費用を負担する。ただし、その損害(第47条第1項の規定により付された保険等によりてん補された部分を除く。)のうち甲の責に帰すべき事由により生じたものについては、甲が負担する。

(第三者に及ぼした損害)

第29条 工事の施工について第三者に損害を及ぼしたときは、乙がその損害を賠償しなければならない。ただし、その損害(第47条第1項の規定により付された保険等によりてん補された部分を除く。以下本条において同じ。)のうち甲の責に帰すべき事由により生じたものについては、甲が負担する。

2 前項の規定にかかわらず、工事の施工に伴い通常避けることができない騒音、振動、地盤沈下、地下水の断絶等の理由により第三者に損害を及ぼしたときは、甲がその損害を負担しなければならない。ただし、その損害のうち工事の施工につき乙が善良な管理者の注意義務を怠つたことにより生じたものについては、乙が負担する。

3 前2項の場合その他工事の施工について第三者との間に紛争を生じた場合においては、甲乙協力してその処理解決に当たるものとする。

(不可抗力による損害)

第30条 工事目的物の引渡し前に、天災等(設計図書で基準を定めたものにあつては、当該基準を超えるものに限る。)で甲乙双方の責に帰することができないもの(以下「不可抗力」という。)により、工事目的物、仮設物又は工事現場に搬入済みの工事材料若しくは建設機械器具に損害が生じたときは、乙は、その事実の発生後直ちにその状況を甲に通知しなければならない。

2 甲は、前項の規定による通知を受けたときは、直ちに調査を行い、前項の損害(乙が善良な管理者の注意義務を怠つたことに基づくもの及び第47条第1項の規定により付された保険等によりてん補された部分を除く。以下本条において同じ。)の状況を確認し、その結果を乙に通知しなければならない。

3 乙は、前項の規定により損害の状況が確認されたときは、損害による費用の負担を甲に請求することができる。

4 甲は、前項の規定により乙から損害による費用の負担の請求があつたときは、当該損害の額(工事目的物、仮設物又は工事現場に搬入済みの工事材料若しくは建設機械器具であつて第14条第2項、第15条第1項若しくは第2項又は第38条第3項の規定による検査、立会いその他乙の工事に関する記録等により確認することができるものに係

る額に限る。)及び当該損害の取片付けに要する費用の額の合計額(以下「損害合計額」という。)のうち請負代金額の100分の1を超える額を負担しなければならない。

5 損害の額は、次に掲げる損害につき、それぞれ当該各号に定めるところにより算定する。

一 工事目的物に関する損害

損害を受けた工事目的物に相応する請負代金額とし、残存価値がある場合にはその評価額を差し引いた額とする。

二 工事材料に関する損害

損害を受けた工事材料で通常妥当と認められるものに相応する請負代金額とし、残存価値がある場合にはその評価額を差し引いた額とする。

三 仮設物又は建設機械器具に関する損害

損害を受けた仮設物又は建設機械器具で通常妥当と認められるものについて、当該工事で償却することとしている償却費の額から損害を受けた時点における工事目的物に相応する償却費の額を差し引いた額とする。ただし、修繕によりその機能を回復することができ、かつ、修繕費の額が上記の額より少額であるものについては、その修繕費の額とする。

6 数次にわたる不可抗力により損害合計額が累積した場合における第2次以降の不可抗力による損害合計額の負担については、第4項中「当該損害の額」とあるのは「損害の額の累計」と、「当該損害の取片付けに要する費用の額」とあるのは「損害の取片付けに要する費用の額の累計」と、「請負代金額の100分の1を超える額」とあるのは「請負代金額の100分の1を超える額から既に負担した額を差し引いた額」として同項を適用する。

(請負代金額の変更に代える設計図書の変更)

第31条 甲は、第9条、第16条、第18条から第21条まで、第23条、第26条から第28条まで、第30条又は第35条の規定により請負代金額を増額すべき場合又は費用を負担すべき場合において、特別の理由があるときは、請負代金額の増額又は負担額の全部又は一部に代えて設計図書を変更することができる。この場合において、設計図書の変更内容は、甲乙協議して定める。ただし、協議開始の日から14日以内に協議が整わない場合には、甲が定め、乙に通知する。

2 前項の協議開始の日については、甲が乙の意見を聴いて定め、乙に通知するものとする。ただし、甲が前項の請負代金額を増額すべき事由又は費用を負担すべき事由が生じた日から7日以内に協議開始の日を通知しない場合には、乙は、協議開始の日を定め、甲に通知することができる。

(中間検査)

第32条 甲は、工事の適正な技術的施工を確保するため必要があると認めるときは、中間検査を行うことができる。

2 甲は、前項の検査にあたり必要があると認められるときは、工事の施工部分を最小限度破壊して検査することができる。

3 前2項の場合において、検査又は復旧に直接要する費用は、乙の負担とする。(完了検査及び引渡し)

第33条 乙は、工事が完成したときは、その旨及び工事目的物の引渡しを甲に通知しなければならない。

2 甲は、前項の規定による通知を受けたときは、通知を受けた日から14日以内に乙の立会いのうえ工事の完成を確認するための検査を完了しなければならない。この場合甲は、当該検査の結果を乙に通知しなければならない。

3 甲は、前項の検査によって工事の完成を確認した日をもって工事目的物の引渡しを受けなければならない。

4 乙は、工事が第2項の検査に合格しないときは、直ちに修補して甲の検査を受けなければならない。この場合においては、補修の完了を工事の完成とみなして前3項の規定を適用する。

5 甲は、第2項及び前項の検査にあたり必要があると認められるときは、工事目的物を最小限度破壊して検査することができる。

6 第2項及び前2項の場合において、検査又は復旧に直接要する費用は、乙の負担とする。

る。

(請負代金の支払)

第34条 乙は、前条第2項の検査に合格したときは、請負代金の支払を請求することができる。

2 甲は、前項の規定による請求があったときは、適法な請求書を受理した日から40日以内に請負代金を支払わなければならない。

(部分使用)

第35条 甲は、第33条第3項の規定による引渡し前においても、工事目的物の全部又は一部を乙の書面による同意を得て使用することができる。この場合必要があるときは、甲は、乙の立会いのうえ当該使用部分の出来形を確認しなければならない。

2 前項の場合において、甲は、その使用部分を善良な管理者の注意をもって使用しなければならない。

3 甲は、第1項の使用により乙に損害を及ぼしたときは、その損害を賠償しなければならない。賠償額は、甲乙協議して定める。

(前金払)

第36条 乙は、甲に対して請負代金額の10分の4の範囲内において、甲が定めた率により計算した額の範囲内の前払金の支払を請求することができる。ただし、請負代金額が500万円未満のものについては、この限りではない。

2 甲は、前項の規定による請求があったときは、適法な請求書を受理した日から14日以内に前払金を支払わなければならない。

3 乙は、第1項の規定による請求をする場合においては、あらかじめ、保証事業会社と、契約書記載の工事完成の時期を保証期限とする、公共工事の前払金保証事業に関する法律(昭和27年法律第184号)第2条第5項に規定する保証契約(以下「保証契約」という。)を締結し、その保証証書を甲に寄託しなければならない。

4 乙は、請負代金額が著しく増額された場合においては、その増額後の請負代金額の10分の4の範囲内において、甲が定めた率により計算した額から受領済みの前払金を差し引いた額の範囲内で前払金の支払を請求することができる。この場合において乙は、あらかじめ、保証契約を変更し、変更後の保証証書を甲に寄託しなければならない。

5 前項の規定による請求があったときは、第2項の規定を準用する。

(前払金の使用等)

第37条 乙は、前払金をこの工事の材料費、労務費、機械器具の賃借料、機械購入費(この工事において償却される割合に相当する額に限る。)、動力費、支払運賃、修繕費、仮設費、労働者災害補償保険料及び保証料に相当する額として必要な経費以外の支払に充ててはならない。

(部分払)

第38条 乙は工事の完成前に、出来形部分に相応する請負代金相当額の10分の9以内の額について、次項から第7項までに定めるところにより部分払を請求することができる。この場合において、請負代金相当額は、第3項の確認に基づき甲が通知した出来形割合を請負代金額に乗じて得た額とする。

2 乙は部分払を請求しようとするときは、あらかじめ、当該請求に係る出来形部分の確認を甲に請求しなければならない。

3 甲は、前項の場合において、遅滞なく乙の立会いの上、設計図書に定めるところにより、前項の確認をするための検査を行い、当該確認の結果を乙に通知しなければならない。この場合において、甲は、必要があると認められるときは、出来形部分を最小限度破壊して検査することができる。

4 前項の場合において、検査又は復旧に直接要する費用は、乙の負担とする。

5 乙は、第3項の規定による通知があったときは、部分払を請求することができる。この場合において、甲は当該請求があったときは、適法な請求書を受理した日から14日以内に部分払金を支払わなければならない。

6 部分払金の額は、次の式により算定する。

部分払金の額 \leq 請負代金額 \times 出来形割合 $\times 9 / 10 -$ 前払金額 \times 出来形割合
- 支払済部分払金の額

7 乙は第1項の規定により部分払の請求ができる回数は、6回を超えることはできない。

(部分引渡し)

第39条 工事目的物について、甲が設計図書において工事の完成に先だつて引渡しを受けるべきことを指定した部分（以下「指定部分」という。）がある場合において、当該指定部分の工事が完了したときについては、第33条中「工事」とあるのは「指定部分に係る工事」と、「工事目的物」とあるのは「指定部分に係る工事目的物」と、第34条中「請負代金」とあるのは「部分引渡しに係る請負代金」と読み替えて、これらの規定を準用する。

2 前項の規定により準用される第34条第1項の規定により請求することができる部分引渡しに係る請負代金の額は、次の式により算定する。この場合において、指定部分に相応する請負代金の額は、甲が定め、乙に通知する。

$$\text{部分引渡しに係る請負代金の額} = \text{指定部分に相応する請負代金の額} \times \frac{\text{（1-前払金額/請負代金額）} - \text{指定部分に相応する支払済部分払金の額}}{\text{（前払金等の不払に対する工事の中止）}}$$

第40条 乙は、甲が第36条、第38条又は第39条において準用される第34条の規定に基づく支払を遅延し、相当の期間を定めてその支払を請求したにもかかわらず支払をしないときは、工事の全部又は一部の施工を中止することができる。この場合においては、乙は、その理由を明示した書面により、直ちにその旨を甲に通知しなければならない。

2 甲は、前項の規定により乙が工事の施工を中止した場合において、必要があると認められるときは工期若しくは請負代金額を変更し、又は乙が工事の続行に備え工事現場を維持し若しくは労働者、建設機械器具等を保持するための費用その他の工事の施工の一時中止に伴う増加費用を必要とし若しくは乙に損害を及ぼしたときは必要な費用を負担しなければならない。

(かし担保)

第41条 甲は工事目的物にかしがあるときは、乙に対して相当の期間を定めてそのかしの修補を請求し、又は修補に代え若しくは修補とともに損害の賠償を請求することができる。ただし、かしが重要ではなく、かつ、その修補に過分の費用を要するときは、甲は、修補を請求することができない。

2 前項の規定によるかしの修補又は損害賠償の請求は、第33条第3項（第39条においてこれらの規定を準用する場合を含む。）の規定による引渡しを受けた日から木造、簡易は装その他これに準ずる工事目的物の場合は1年以内、コンクリート造、石造、金属造その他これに準ずる工事目的物の場合は2年以内に、これを行わなければならない。ただし、そのかしが乙の故意又は重大な過失により生じた場合は、当該請求を行うことのできる期間は10年とする。

3 甲は、工事目的物の引渡しの際にかしがあることを知ったときは、第1項の規定にかかわらず、その旨を直ちに乙に通知しなければ、当該かしの修補又は損害賠償の請求をすることはできない。ただし、乙がそのかしがあることを知っていたときは、この限りでない。

4 甲は、工事目的物が第1項のかしにより滅失又はき損したときは、第2項の定める期間内で、かつ、その滅失又はき損の日から6か月以内に第1項の権利を行使しなければならない。

5 第1項の規定は、工事目的物のかしが支給材料の性質又は甲若しくは監督員の指図により生じたものであるときは適用しない。ただし、乙がその材料又は指図が不適当であることを知りながらこれを通知しなかったときは、この限りではない。

(履行遅滞の場合における違約金等)

第42条 乙の責に帰すべき事由により工期内に工事を完成することができないときは、遅滞なく理由を甲に申し出なければならない。

2 前項の場合において、甲は、工期経過後相当の期間内に完成する見込みがあると認めるときは、乙に違約金を請求することができる。この場合違約金の額は、請負代金額から出来形部分に相応する請負代金額を控除した額に、遅延日数1日につき、500分の1に相当する金額とする。

3 甲の責に帰すべき事由により、第34条第2項（第39条において準用する場合を含む。）の規定による請負代金の支払が遅れた場合においては、乙は、未受領金額につき、

政府契約の支払遅延防止等に関する法律（昭和24年法律第256号）第8条の規定に基づいて、遅延日数に応じ、年3.0パーセントの割合で計算した額の遅延利息の支払を甲に請求することができる。

（甲の解除権）

第43条 甲は、乙が次の各号の一に該当するときは、契約を解除することができるものとし、このため乙に損害が生じても、甲はその責を負わないものとする。

- 一 正当な理由なく、工事に着手すべき期日を過ぎても工事に着手しないとき。
- 二 その責に帰すべき事由により工期内に完成しないとき又は工期経過後相当の期間内に工事を完成する見込みが明らかでないとき。
- 三 第11条第1項に掲げる者を設置しなかったとき。
- 四 第4条第1項の規定により保証を付さなければならない場合において、保証を付さなかったとき。
- 五 前4号に掲げる場合のほか、契約に違反し、その違反により契約の目的を達することができないと認められるとき。
- 六 第45条第1項の規定によらないで契約の解除を申し出たとき。

2 前項の規定により契約が解除された場合においては、乙は、請負代金額の10分の1に相当する額を違約金として甲の指定する期間内に支払わなければならない。

3 前項の場合において、第4条の規定により契約保証金の納付又はこれに代わる担保の提供が行われているときは、甲は、当該契約保証金又は担保をもって違約金に充当することができる。

（談合その他不正行為に係る解除）

第43条の2 甲は、乙がこの契約に関して、次の各号のいずれかに該当したときは、契約を解除することができるものとし、このため乙に損害が生じても、甲はその責を負わないものとする。

一 乙が私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律（昭和22年法律第54号。以下「独占禁止法」という。）第3条の規定に違反し、又は乙が構成事業者である事業者団体が同法第8条第1号の規定に違反したことにより、公正取引委員会が乙に対し、同法第7条の2第1項の規定に基づく課徴金の納付命令を行い、当該納付命令が確定したとき。

二 乙（法人にあっては、その役員又は使用人を含む。）の刑法（明治40年法律第45号）第96条の6又は独占禁止法第89条第1項若しくは第95条第1項第1号に規定する刑が確定したとき。

三 乙（法人にあっては、その役員又は使用人を含む。）の刑法第198条の規定による刑が確定したとき。

2 乙が共同企業体である場合における前項の規定については、その代表者又は構成員が同項各号のいずれかに該当した場合に適用する。

（暴力団等排除に係る解除）

第43条の3 甲は、乙が次の各号のいずれかに該当するときは、この契約を解除することができるものとし、このため乙に損害が生じても、甲はその責を負わないものとする。

一 法人等（法人又は団体若しくは個人をいう。以下同じ。）の役員等（法人にあっては非常勤を含む役員及び支配人並びに営業所の代表者、その他の団体にあっては法人の役員等と同様の責任を有する代表者及び理事等、個人にあってはその者及び支店又は営業所を代表する者をいう。以下同じ。）に暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号。以下「暴対法」という。）第2条第6号に規定する暴力団員（以下「暴力団員」という。）又は暴力団員ではないが暴対法第2条第2号に規定する暴力団（以下「暴力団」という。）と関係を持ちながら、その組織の威力を背景として暴力的不法行為等を行う者（以下「暴力団関係者」という。）がいると認められるとき。

二 暴力団員又は暴力団関係者（以下「暴力団員等」という。）がその法人等の経営又は運営に実質的に関与していると認められるとき。

三 法人等の役員等又は使用人が、暴力団の威力若しくは暴力団員等又は暴力団員等が経営若しくは運営に実質的に関与している法人等を利用するなどしていると認められるとき。

四 法人等の役員等又は使用人が、暴力団若しくは暴力団員等又は暴力団員等が経営若し

くは運営に実質的に関与している法人等に対して資金等を供給し、又は便宜を供与するなど暴力団の維持運営に協力し、又は関与していると認められるとき。

五 法人等の役員等又は使用人が、暴力団又は暴力団員等と社会的に非難されるべき関係を有していると認められるとき。

六 法人等の役員等又は使用人が、前各号のいずれかに該当する法人等であることを知りながら、これを利用するなどしていると認められるとき。

2 乙が共同企業体である場合における前項の規定については、その代表者又は構成員が同項各号のいずれかに該当した場合に適用する。

3 甲は、前各項の規定によりこの契約を解除したときは、これによって生じた甲の損害の賠償を乙に請求することができる。

4 前項の場合において、乙が共同企業体であるときは、代表者又は構成員は、賠償金を連帯して甲に支払わなければならない。乙が既に共同企業体を解散しているときは、代表者であった者又は構成員であった者についても、同様とする。

第44条 甲は、工事が完成するまでの間は、第43条第1項、第43条の2及び前条の規定によるほか、必要があるときは、契約を解除することができる。

2 甲は前項の規定により契約を解除したことにより乙に損害を及ぼしたときは、その損害を賠償しなければならない。
(乙の解除権)

第45条 乙は、次の各号の一に該当するときは、契約を解除することができる。

一 第20条の規定により設計図書を変更したため請負代金額が3分の2以上減少したとき。

二 第21条の規定による工事の施工の中止期間が工期の10分の5（工期の10分の5が6か月を超えるときは、6か月）を超えたとき。ただし、中止が工事の一部のみの場合は、その一部を除いた他の部分の工事が完了した後3か月を経過しても、なおその中止が解除されないとき。

三 甲が契約に違反し、その違反によって契約の履行が不可能となったとき。

2 乙は、前項の規定により契約を解除した場合において、損害があるときは、その損害の賠償を甲に請求することができる。
(解除に伴う措置)

第46条 甲は、契約が解除された場合においては、出来形部分を検査の上、当該検査に合格した部分の引渡しを受けるものとし、当該引渡しを受けたときは、当該引渡しを受けた出来形部分に相応する請負代金を乙に支払わなければならない。この場合において、甲は、必要があると認められるときは、出来形部分を最小限度破壊して検査することができる。

2 前項の場合において、検査又は復旧に直接要する費用は、乙の負担とする。

3 第1項の場合において、第36条の規定による前払金があったときは、当該前払金の額（第38条の規定による部分払をしているときは、その部分払において償却した前払金の額を控除した額）を第1項前段の出来形部分に相応する請負代金額から控除する。この場合において、受領済の前払金額になお余剰があるときは、乙は、解除が第43条、第43条の2及び第43条の3の規定によるときにあっては、その余剰額（1,000円未満の端数金額及び1,000円未満の金額は切り捨てる。）に前払金の支払の日から返還の日までの日数に応じ年3.0パーセントの割合で計算した額の利息を付した額を、解除が第44条又は前条の規定によるときにあっては、その余剰額を甲に返還しなければならない。

4 前項の利息に100円未満の端数があるとき、又は利息が100円未満であるときは、その端数金額又はその利息は徴収しない。

5 乙は、契約が解除された場合において、支給材料があるときは、第1項の出来形部分の検査に合格した部分に使用されているものを除き、甲に返還しなければならない。この場合において、当該支給材料が乙の故意若しくは過失により滅失若しくはき損したとき、又は出来形部分の検査に合格しなかった部分に使用されているときは、代品を納め、若しくは原状に復して返還し、又は返還に代えてその損害を賠償しなければならない。

6 乙は、契約が解除された場合において、工事用地等に乙が所有又は管理する工事材料、建設機械器具、仮設物その他の物件（下請負人の所有又は管理するこれらの物件を含む。

7
8
第
2
3
4
第
2
3
第
2
第
2

以下本条において同じ。)があるときは、乙は、当該物件を撤去するとともに、工事用地等を修復し、取片付けて、甲に明け渡さなければならない。

- 7 前項の場合において、乙が正当な理由なく、相当の期間内に当該物件を撤去せず、又は工事用地等の修復若しくは取片付けを行わないときは、甲は、乙に代わって当該物件を処分し、工事用地等を修復若しくは取片付けを行うことができる。この場合においては、乙は、甲の処分又は修復若しくは取片付けについて異議を申し出ることができず、また、甲の処分又は修復若しくは取片付けに要した費用を負担しなければならない。
- 8 第5項前段に規定する乙のとるべき措置の期限、方法等については、契約の解除が第43条、第43条の2及び第43条の3の規定によるときは甲が定め、第44条及び前条の規定によるときは、乙が甲の意見を聴いて定めるものとし、第5項後段及び第6項に規定する乙のとるべき措置の期限、方法等については、甲が乙の意見を聴いて定めるものとする。

(談合その他不正行為に係る賠償金の支払い)

第46条の2 乙は、第43条の2第1項各号のいずれかに該当するときは、甲が契約を解除するか否かにかかわらず、賠償金として、契約金額の10分の2に相当する額を甲が指定する期限までに支払わなければならない。乙が契約を履行した後も同様とする。

2 乙は、次の各号に掲げる場合のいずれかに該当したときは、前項の規定に関わらず、契約金額の10分の3に相当する額を支払わなければならない。

- 一 第43条の2第1項第1号に規定する確定した納付命令について、独占禁止法第7条の2第6項の規定の適用があるとき。
- 二 第43条の2第1項第2号に規定する刑に係る確定判決において、乙が違反行為の首謀者であることが明らかになったとき。
- 三 乙が甲に誓約書を提出しているとき。

3 前2項の規定に関わらず、甲は、甲に生じた実際の損害額が同項に規定する賠償金の額を超える場合においては、乙に対しその超過分につき賠償を請求することができる。

4 前各項の場合において、乙が共同企業体であるときは、代表者又は構成員は、賠償金を連帯して甲に支払わなければならない。乙が既に共同企業体を解散しているときは、代表者であった者又は構成員であった者についても、同様とする。

(火災保険等)

第47条 乙は、工事目的物及び工事材料(支給材料を含む。以下本条において同じ。)等を設計図書に定めるところにより火災保険、建設工事保険その他の保険(これに準ずるものを含む。以下本条において同じ。)に付さなければならない。

2 乙は、前項の規定により保険契約を締結したときは、その証券又はこれに代わるものを直ちに甲に提示しなければならない。

3 乙は、工事目的物及び工事材料等を第1項の規定による保険以外の保険に付したときは、直ちにその旨を甲に通知しなければならない。

(妨害又は不当要求に対する届出義務)

第48条 乙は、契約の履行に当たって、妨害(不法な行為等で、業務履行の障害となるものをいう。)又は不当要求(金銭の給付等一定の行為を請求する権利若しくは正当な利益がないにもかかわらずこれを要求し、又はその要求の方法、態様若しくは程度が社会的に正当なものと認められないものをいう。)を受けた場合は、甲へ報告するとともに警察へ被害届を提出しなければならない。

2 乙が妨害又は不当要求を受けたにもかかわらず、前項の被害届の提出を怠ったと認められる場合は、瀬戸市の調達契約からの排除措置を講じることがある。

(あっせん又は調停)

第49条 この約款の各条項において甲乙協議して定めるものにつき協議が整わなかったときに甲が定めたものに乙が不服がある場合、その他この契約に関して甲乙間に紛争が生じた場合には、甲及び乙は、建設業法による建設工事紛争審査会(以下「審査会」という。)のあっせん又は調停を請求することができる。

2 前項の規定にかかわらず、現場代理人の職務の執行に関する紛争、主任技術者若しくは監理技術者又は専門技術者その他乙が工事を施行するために使用している下請負人、労働者等の工事の施工又は管理に関する紛争については、第13条第3項の規定により乙が決定を行った後、又は乙が決定を行わずに同条第3項の期間が経過した後でなけれ

ば、甲及び乙は、前項のあつせん又は調停を請求することができない。

(仲裁)

第50条 甲及び乙は、その一方又は双方が前条の審査会のあつせん又は調停により紛争を解決する見込みがないと認めたときは、仲裁合意を締結した場合にあっては、前条の規定にかかわらず、仲裁合意書に基づき、審査会の仲裁に付し、その仲裁判断に服する。

(補則)

第51条 この約款に定めのない事項については、必要に応じて甲乙協議して定める。

設計者	検算者	チーム リーダー	主幹	課長
-----	-----	-------------	----	----

設計書

消防救急デジタル無線整備事業

瀬戸市苗場町101番地ほか地内

設計金額	金	- 円也
工事価格	金	- 円也
消費税及び地方消費税額	金	- 円也
工事価格のうち非課税分	金	- 円也

工事内容 消防救急デジタル無線整備事業

名称	摘要	単位	数量	単価	金額	備考
1 基地局設備		式	1			第1号明細
2 移動局設備		式	1			第2号明細
3 アナログ無線関係		式	1			第3号明細
4 署所設備		式	1			第4号明細
5 指令センター設備		式	1			第5号明細
6. 開局申請手数料 印紙代(非課税) 窓口申請		式	1			第6号明細
小計(6. 開局申請手数料除く)						
消費税及び地方消費税						
	5%					
合計						
非課税分(6. 開局申請手数料)						
総計						

第1号明細

備考

摘要	単位	数量	単価	金額	備考
1. 基地局設備					
(1) 統制波 (現用)		3			
(2) 統制波 共通予備		1			
(3) 主運用波 (現用/予備)		1			
(4) 活動波 (現用/予備)		3			
(5) 回線制御装置		1			
(6) 空中線共用器		3			
(7) 同軸避雷器		6			
(8) 空中線一式		1			
(9) 直流電源装置		1			
(10) 変電設備		1			
(11) 鉄塔		1			
(12) 工事費		1			

No. 3

第2号明細

備考

摘要	単位	数量	単価	金額	備考
2. 移動局設備					

摘要	単位	数量	単価	金額	備考
2. 移動局設備					
(1) 車載用無線装置 緊急消防援助隊用 瀬戸4、尾張旭4		8			
(2) 車載用無線装置 瀬戸23、尾張旭15		38			
(3) 携帯用無線装置 緊急消防援助隊用 瀬戸8、尾張旭6		14			
(4) 携帯用無線装置 瀬戸24、尾張旭11		35			
(5) 車載型受令機 瀬戸12、尾張旭6		18			
(6) 携帯型受令機 瀬戸39		39			
(7) 可搬型無線装置 瀬戸2、尾張旭1		3			
(8) III型車両運用端末装置 瀬戸1、尾張旭1		2			
(9) 工事費 瀬戸27、尾張旭19		46			

第3号明細

摘要	単位	数量	単価	金額	備考
3. アナログ無線関係					
(1) アナログ無線撤去費用		1			

No. 5

第4号明細

摘要	単位	数量	単価	金額	備考

4. 署所設備

(1) 署活動系無線

アナログ400MHz
瀬戸41、尾張旭25

66

(2) 可搬型無線装置

瀬戸5、尾張旭1

6

(3) 署所用受令機

瀬戸19、尾張旭7

26

第5号明細

摘要	単位	数量	単価	金額	備考
5. 指令センター設備					
(1) 調整本部接続機能改修費		1			
(2) 指令台接続用アダプタ		1			
(3) 遠隔制御器 (無線統制台)		7			
(4) 工事費		1			

No. 7

第6号明細

摘要	単位	数量	単価	金額	備考

摘要		単位	数量	単価	金額	備考
6. 開局申請手数料	印紙代(非課税) 窓口申請					
(1) 1W以下			66			
(2) 1W超 5W以下(移動局)			49			
(2) 5W超 10W以下(移動局)			55			
(3) 5W超 10W以下(基地局)			1			
(4) 検査手数料			1			

見 積 要 領

本工事見積は、下記条項及び設計図書を熟覧のうえ見積されたい。

1. 工事名 消防救急デジタル無線整備事業
2. 工事場所 瀬戸市苗場町101番地ほか地内
3. 設計図書
 - ・仕様書 1部
 - ・設計書 1部
 - ・見積要領 1部

※ 公共建築工事標準仕様書及び公共建築改修工事標準仕様書 [国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 (建築、電気設備、機械設備工事編) (最新版)] を参照のこと。
4. 契約
 - ・「瀬戸市契約規則」の定めるところによる。
 - ・日時 見積後連絡
 - ・場所 瀬戸市消防本部消防課
5. 届出手続等 工事着手、施工、完成に当たり、関係官公署その他の関係機関への必要な届出手続等は請負者が行う。
6. 提出書類
 - ・裏面のおりとする。ただし、当該工事に該当しない場合は省略できるものとする。
 - ・部数の () は写しの数 (例: 2(1)は正本1、写し1)

提出書類一覧

部数の内 () は写しの数とする。(例: 2 (1) は正本1、写し1)

提出時期	提出書類	部数	
契約後5日以内	着工届	2 (1)	
	現場代理人及び監理技術者通知書	2 (1)	
	工程表 (出来形曲線記入のこと)	2 (1)	
契約後すみやかに	契約保証証書 ※1	2 (1)	
	建設工事保険証書の写し	2 (1)	
	施工計画書	2 (1)	
	使用材料一覧表 (マーカーリスト)	2 (1)	
	工事下請負届	2 (1)	
	施工体系図	2 (1)	
	建設廃棄物処理計画書	2 (1)	
	再生資源利用計画書	2 (1)	
	再生資源利用促進計画書	2 (1)	
	特定建設作業実施届出書の写し	2 (1)	
	登録内容確認書の写し (CORINS)	2 (1)	
	建設業退職金共済掛金収納書 ※2	2 (1)	
工事中	前払金保証証書	2 (1)	
	前払金請求書	2 (1)	
	工事報告書 (工事進捗状況) ※3	2 (1)	
	工事使用資材承認願	2 (1)	
	各種品質証明書	2 (1)	
	材料試験結果報告書	2 (1)	
	各種試験結果報告書	2 (1)	
	各種施工図	2 (1)	
	精算請求書	2 (1)	
	完了届	2 (1)	
完了時	工事社内検査報告書	2 (1)	
	竣工図 A3原図	原図 2	
	2つ折り製本・黒文字入 ※4	製本 2	
	CADデータ (DWGまたはDXF形式)	CD 2	
	竣工写真 (カラーサービス版、写真帳入)	2	
	工事記録写真、工事記録	2 (1)	
	主要材料・機器一覧表	2 (1)	
	建設廃棄物処理実績書	2 (1)	
	再生資源利用実施書	2 (1)	
	再生資源利用促進実施書	2 (1)	
	あいくる材使用状況報告書	2 (1)	
	あいくる材使用実績集約表	2 (1)	
	官公庁届出書類の写し	2 (1)	
	安全管理記録の写し	2 (1)	
	各種品質管理及び保証書	2 (1)	
	機器取扱説明書	2 (1)	
	鍵、その他引渡し物件一覧表	2 (1)	
	型枠工事等実施報告書	2 (1)	
	製品出荷証明書	2 (1)	
	登録内容確認書の写し (CORINS)	2 (1)	
	その他	係員の指示するもの	必要数

※1 契約規則第30条による。

※2 建設業退職金共済掛金収納書を購入しない場合、理由書を提出

※3 毎月1回の打合せ記録、工事日報、出来形写真、共済証紙払出簿を含む。